

平成23年1月28日

食と農林漁業再生実現会議 幹事会

道東あさひ農業協同組合
代表理事組合長 原井 松純

(1) 基幹産業 根室酪農

年間平均気温7℃の冷涼な気候から、一般作物の栽培ができず、昭和30年代の根釧パイロットファーム、50年代の夢の新酪農村事業と、日本で最後まで農用地開発の行われた地域であり、牧草しか栽培できないことから、酪農に特化した食料供給基地となった。

①生産高

国内生乳生産量800万トンのうち、1割を占める812千トン。販売高795億円。
酪農家約1,300戸、1農場当たり80haの草地で、約5,500万円の販売高。

②経営

平成15～16年頃までは、酪農の所得率は3割。その後、日本の少子高齢化、経済の低迷による需要減少、さらには、世界的な資源・食料暴騰による飼料・肥料の値上がりで、所得率は2割に。現状の所得額は1,200万円程度。

北海道は、生乳生産の拡大で所得の維持を図ってきた。

③農業の位置づけ

根室管内の農業生産高800億円程度に対し、全製造業に占める食品工業の割合は90%以上と道内で最も高く、ほとんどの関連産業が酪農に依存している地域である。

(2) 生乳の安定供給

北海道酪農は、都府県で不足する飲用向け原料乳を安定的に供給している。同時に、都府県の生乳生産(約400万トン)を支える乳牛資源の供給基地でもある。

①飲用向け生乳の供給

全国生乳生産量790万トン、うち飲用向け供給量420万トン。

②北海道から都府県への移出

飲用向け生乳として36万トン。

長距離輸送のため、トレーサビリティの確立した限りなく品質の高い生乳生産が前提。

(3) 今後の日本の酪農産業